



平成 29 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 F F R I
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鵜 飼 裕 司
(コード番号：3692 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 最 高 財 務 責 任 者 田 中 重 樹
(TEL. 03-6277-1518)

連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ

当社は、平成30年3月期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）より、連結決算に移行いたしますので、平成30年3月期通期連結業績予想につきまして、下記のとおりお知らせします。

記

1. 連結決算開始について

当社は、平成 29 年 4 月 3 日に北米におきまして初の子会社となる FFRI North America, Inc. を設立しました。同社の資産、損益の重要性から平成 30 年 3 月期第 1 四半期から同社を連結対象として、連結決算へ移行いたします。

2. 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当 期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通期	1,765	280	280	234	28.88

3. 連結業績予想の概要

当社グループの平成 30 年 3 月期におきましては以下の項目を中心に取り組む予定です。

1つ目はセキュリティ・プロダクトの拡販です。当社グループの事業分野である未知脅威対策市場では、標的型攻撃のターゲットとなりやすい大手企業や中央省庁に限っても適切な対策が取られている先は一部となっており、当社製品の拡販余地は大きい状況です。また、ランサムウェアの登場でサイバー攻撃が身近になったことで、大企業や中央省庁以外の層にも対策の動きが広がっています。

2つ目は FFRI yarai の海外展開です。当社グループは平成 29 年 4 月 3 日に北米に初めての子会社となる FFRI North America, Inc. を設立し、課題であった北米での拡販を本格的に開始することとなりました。北米のセキュリティ市場規模は日本の約 10 倍というデータもあるほか日本に比べてセキュリティに対するリテラシーは高く、よい製品が受け入れられやすい土壌があります。これまで北米市場ではサイバー攻撃は防げないことを前提に、早期に検知して被害を最小限に留めることを目的とするゲートウェイ型の製品が普及していました。最近の標的型攻撃は感染から被害発生までの時間が短期化していることや、感染後即被害発生するランサムウェアの登場で、攻撃を検知してからの対応では手遅れになる

状況になっており、今後は攻撃の検知ではなく、当社グループの **FFRI yarai** のように攻撃を防御できる製品が求められています。

3つ目は個人向け製品の拡販です。**Android** 向け「安心アプリチェッカー」の販売が好調に推移している中で、市場環境は大きく変化しております。次期においては個人向け製品販売における中長期的な販売拡大のためのビジネスモデルの再構築に取り組む予定です。

4つ目は新しいセキュリティ領域の研究開発です。以前より当社グループでは車載セキュリティに関する研究や、車載システム関連企業に対してセキュリティ調査・研究のサービスを提供するなど行っており、これまでの活動により車載セキュリティに関するノウハウの蓄積が進みました。次期においては蓄積したノウハウを元に自動車をサイバー攻撃から守る製品やサービスの開発に向けて取り組む予定です。また、その他に当社グループは今後新たに生まれてくるセキュリティリスクについても常時研究を行っており、将来発生する脅威に先回りして対策を講じると同時に、新たなビジネスの創出に取り組んでおります。

平成30年3月期における売上計画の内訳は以下のとおりです。

平成30年3月期売上計画の内訳

区分			通期計画 (百万円)
国内	法人	製品	1,189
		サービス	180
	個人		310
	小計		1,679
海外	法人	製品	85
合計			1,765

(注)平成30年3月期より海外販売を開始したため区分を変更し、国内及び海外に分けて記載しております。

なお、個別業績予想につきましては、本日開示いたしました平成29年3月期決算短信〔日本基準〕（非連結）をご覧ください。

(注)上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

以上